

上越市立歴史博物館が開館

7月21日、上越市立歴史博物館が開館しました。20日に執り行った開館記念式典で、村山市長は「市民が自らのまちの歴史を見つめ、伝え合い、語り合う場所として活用され、新たなまちの力になることを願います」とあいさつしました。

館内では、中世越後国府と春日山城から福島城、高田城への変遷を紹介する展示をはじめ、模型やVR映



像で、高田城と城下町の様子を紹介しています。また、石油産業や鉄道敷設、陸軍の誘致、日本のスキー発祥など、近代の上越の様子のほか、雁木通りや雪下駄職人、高田警女など雪国の暮らしと民俗についても紹介しています。

開館初日に訪れた人は、模型や映像を使った展示を熱心に見ていました。

■小林古径記念美術館増築工事 安全祈願祭

7月24日、小林古径記念美術館の増築工事の安全祈願祭が執り行われ、本格的な工事が始まりしました。



小林古径記念美術館は、小林古径邸敷地内に移転し、小林古径の作品や郷土ゆかりの美術作品を展示するための展示室などを増築します。オープンは平成32年秋を予定しています。(新元号が未定のため平成と表記)

メイド・イン上越 新たな認証品が決定

7月30日に認証書交付式を行い、工業製品分野から4事業者4品、特産品分野から4事業者4品が認定されたほか、地域の継承品として1事業者が登録されました。



に開発された特産品、地元で親しまれ定着している商品に認証することで、市内外へ広く発信し、その販路開拓や販売促進を支援する制度です。

今回で認証品は44事業者114品となりました。認証品は市ホームページで紹介しているほか、市内4カ所の常設販売コーナーなどでも販売されています。

村山市長は、「認証された製品や特産品などは、地域の誇りとして、産業の発展につながる。引き続き、ものづくりの研さんに励んでほしい」とあいさつしました。また、製品開発の経緯や特徴、苦労した点などについて、事業者からは「新しいことにチャレンジしようと思った」、「上越の特色を生かした」、「開発に3年かかった」など、製品に込められた思いが語られました。

■メイド・イン上越の認証制度

当市の中小企業等が研究開発により製造した優れた工業製品や、新



教育委員会委員、公平委員会委員へ辞令を交付

7月17日、任期満了に伴い新たに教育委員会委員と公平委員会委員に任命、選任した委員へ辞令を交付しました。任期は教育委員会委員が平成34年7月26日、公平委員会委員が平成34年7月25日までです。



教育委員会委員 本間倫子さん(新任)



公平委員会委員 笹川恵美子さん(再任)

新たな友好が芽生える ～韓国・浦項市で茶道交流～

7月26日から29日まで、上越茶道会をはじめとする訪問団が、友好都市である韓国・浦項市を訪問し、浦項茶人会から参加した約20人の皆さんと茶道交流を行いました。

交流会では、上越茶道会の皆さんが、抹茶と上越市のお菓子を振る舞いながら上越市を紹介。和やかな雰囲気の中、互いの国の伝統的な茶道を披露し合い、市民同士の交流を深めました。



浦項市の李康德市長からは、「今回のような市民交流を行うことで、友好関係が深まり、市民の行き来が増えることを願っている」と話があり、今後も相互交流を継続していくことを確認しました。



平成30年7月豪雨 被災地に職員を派遣

平成30年7月豪雨に係る住家の被害認定調査支援として、当市から岡山県倉敷市へ職員2人を派遣しました。

派遣された職員は7月19日から23日までの5日間、被災した家屋の被害認定調査などを行いました。

市では、今回の職員派遣で得られた貴重な経験を今後の災害対策に役立てていきます。



平成30年度学校給食調理コンクール 上越市チームが最優秀賞を受賞

8月1日に行われた「平成30年度学校給食調理コンクール」において、当市の栄養教諭、栄養主査、調理員で構成する上越市チームが2年ぶりに最優秀賞を受賞しました。

同コンクールは、学校給食を生きた教材として活用するため、県内の学校給食関係者を対象に、新潟県教育委員会と公益財団法人新潟県学校給食会が毎年開催しているもので、今回は書類審査を通過した9チームが工夫を凝らした献立を調理し、本審査を受けました。

地元食材や郷土料理を取り入れた上越市チームの献立の一部の食材を変更して、今後の学校給食で提供する予定です。

■上越市チームの献立

「輝く！発酵のまち上越 味めぐりランチ」



- ▶献立
- ごはん
- めぎすのフライ甘酒 トマトソース
- なますかぼちゃの梅みそ和え
- 発酵のまちの夏のっぺ
- 善兵衛さんのワインゼリー
- 牛乳